



平成 21 年 2 月 9 日

各 位

京都市上京区東堀川通り一条上ル堅富田町 436 番地の 2
株式会社エスケーエレクトロニクス
代表取締役社長 野上良忠
(コード番号: 6677)

問い合わせ先 取締役 藤原英博
管理本部担当
電話番号 075 (441) 2333 (代表)

業績予想及び配当予想の修正ならびに役員報酬の減額等に関するお知らせ

平成 20 年 11 月 10 日の決算発表時に公表いたしました平成 21 年 9 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）および通期（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正するとともに、役員報酬の減額等を実施いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間（平成20年10月1日～平成21年3月31日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	9,765	△660	△745	△770	△6,788.57
今回修正予想 (B)	5,840	△1,850	△1,980	△1,880	△16,576.45
増減額 (B-A)	△3,925	△1,190	△1,235	△1,110	-
増減率 (%)	△40.2	-	-	-	-
(ご参考) 前第 2 四半期連結累計期間 (平成 20 年 9 月期) 実績	8,289	469	343	163	1,444.62

(2) 通期（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	24,000	290	120	35	308.57
今回修正予想 (B)	17,000	△1,600	△1,800	△1,540	△13,578.58
増減額 (B-A)	△7,000	△1,890	△1,920	△1,575	-
増減率 (%)	△29.2	-	-	-	-
(ご参考) 前期 (平成 20 年 9 月期) 実績	17,161	1,046	886	417	3,677.92

2. 個別業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間（平成20年10月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	8,490	△525	△610	△660	△5,818.77
今回修正予想 (B)	5,170	△1,510	△1,550	△1,615	△14,239.88
増減額 (B-A)	△3,320	△985	△940	△955	-
増減率 (%)	△39.1	-	-	-	-
(ご参考) 前第2四半期期間 (平成20年9月期)実績	6,736	299	323	171	1,513.82

(2) 通期（平成20年10月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	21,270	490	320	155	1,366.53
今回修正予想 (B)	15,500	△880	△1,000	△1,070	△9,434.47
増減額 (B-A)	△5,770	△1,370	△1,320	△1,225	-
増減率 (%)	△27.1	-	-	-	-
(ご参考) 前期 (平成20年9月期)実績	14,063	708	735	327	2,889.97

3. 修正の理由

世界経済の急激な悪化により、第1四半期における液晶パネル業界は需要が低迷し、国内、海外の液晶パネルメーカーにおいても大幅な減産や新規ライン計画の縮小、延期、中止などが相次ぎました。これをうけ、フォトマスク業界におきましても、新設ライン用、量産用、開発用などすべてのフォトマスク需要が低迷し、同業他社との価格競争激化と相まって、当社を取り巻く事業環境は急速に悪化いたしました。そのような状況の中、当社グループは引き続きグループ全体での製品力の更なる向上およびコスト低減活動を推進してまいりましたが、当社主要顧客である台湾メーカーのフォトマスク需要の大幅低迷および国内・海外共に価格競争の激化による想定以上の単価下落の影響から厳しい状況が続きました。

第2四半期以降につきましても、世界経済の先行きは不透明感が強く、当社主要顧客であるシャープ株式会社の第10世代液晶パネル工場の立ち上げ準備や海外パネルメーカーの新ライン増設などが予定されるものの、当社が想定していた当初見込みからは遅延しており、今期中に見込んでいた新設ライン用フォトマスクの売上が減少、また平成21年後半までは液晶パネルの需給バランスの改善は期待できず、パネルメーカーの稼働率の回復時期も見通すことが困難な状況であることから、第2四半期累計ならびに通期売上高が減少することは避けられない状況であります。利益面につきましても、グループ全体での抜本的なコスト削減に取り組んではいるものの減少することは避けられない状況であることから、連結・個別ともに前回公表の業績予想を修正いたします。

4. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金（円）		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想 （平成20年11月10日）	円 銭 — —	円 銭 400 00	円 銭 400 00
今回修正予想	— —	00 00	00 00
当期実績	— —	— —	— —
前期 （平成20年9月期）実績		800 00	800 00

(2) 修正の理由

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の1つとして位置づけ、配当金につきましては、業績の変化を反映させつつ、将来の事業展開に備えた内部留保の充実や業績の進展への見通し等を総合的に勘案し、継続的に実施していくことを基本方針としております。

しかしながら、事業環境の急激な悪化に伴い、前述のとおり業績予想を下方修正すること、また、液晶パネル及びフォトマスク事業の回復時期が不透明であることから、誠に遺憾ではございますが、平成21年9月期の期末配当予想を無配とさせていただきますたく存じます。

株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。早期の業績回復を目指し収益力の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

5. 収益性回復に向けた諸取り組みの実施について

(1) 役員報酬の減額等について

通期業績予想及び配当予想の修正を重く受け止め、経営責任を明確にすべく、以下のとおり役員報酬の減額を実施しております。また、執行役員等管理職におきましても手当の一部減額を実施しております。尚、監査役より監査役報酬の自主返上の申し入れがありましたので、併せてお知らせいたします。

- ① 取締役： 月額報酬の10～20%を減額
- ② 執行役員等管理職： 執行役員等管理職手当の一部減額
- ③ 監査役： 月額報酬の5%を自主返上

(2) 京都工場生産ラインの一部休止（生産の効率化）について

当面、厳しい事業環境が継続すると考えられることから、生産の効率化を図るため、京都工場生産ラインの一部休止を実施いたします。

(3) 経費の削減について

- ・ 設備投資の原則凍結（滋賀工場を除く）
- ・ 研究開発費の大幅圧縮
- ・ 勤務体制の見直しによる人件費の削減

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上